

平成25年7月1日

(第76号)

鵜戸

当神宮初の照明装飾実施。融合音楽祭開催に併せ、多色に変化。
4月25日・26日・27日の3日間、午後6時から9時まで、
松下美紀氏監修のもと「宮崎をひかりで変える委員会」「カラー
キネティクス・ジャパン(株)」の協力による演出で、参道や洞
窟が幻想的な情景に包まれた。



平成二十五年神宮式年遷宮

遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

887-0101

宮崎県日南市宮浦3232

0987-29-1001 FAX0987-29-1003

鵜戸神宮ホームページ

<http://www.udojingu.com/>

制作編集兼発行者

鵜戸神宮社務所

暑中お見舞ひ申し上げます

大切な場所 「笠沙の御前」



宮司 本部雅裕

新緑の瑞々しい季節となりました。鶺鴒山の青葉若葉もキラキラと照り輝いておます。皆様には、ご清適にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、過日私は、母校の卒業生のあるグループから、団体の命名の依頼を受けました。その会は、四〇名程度のメンバーで、名称がないまま過去十一回に渉り懇親の会を開催してきましたが、どうも名前がないのはやりにくい（飲みにくい）との声があつたためでした。

その母校は、西都市の宮崎県立妻高等学校です。西都原の丘陵台地の縁の部分にあり、昨年は創立九十周年を迎へた、県内では古い学校のひとつです。西都原はその中心に、天孫邇邇藝命と、その妃、木花之佐

久夜毘売の御陵と伝へる男狭穂塚、女狭穂塚があり、そのまはりに三〇〇余基の大小の古墳が点在してゐます。この事から、妻高校の卒業生の会は「聖陵会」と称されてゐます。

そこで私は、『古事記』の記述からこの会の名を「聖陵笠沙の会」と名付けたいと考へました。それは、私たち妻高校の卒業生は、西都原の「笠沙の御前」で初めて出会つた仲間であり、その出会ひを大事にしたいと思つたからです。いま、西都原を周遊する散歩道の「記紀の道」のなかには笠沙の御前に比定してある場所に「逢初川」が流れてゐます。

『古事記』は、次のやうに記してゐます。天孫邇邇藝命は、高天の原の天照大御神

のご命令を受けて、筑紫の日向の高千穂の久士布流多氣に天降りになります。豊葦原の水穂の国をお治めになるためです。命が天孫降臨されますと、麗しき美人にお逢ひになります。大山津見の神の女、木花之佐久夜毘売です。この最初にお逢ひになつたところこそ「笠沙の御前」です。その後、二神は結婚されます。この天つ神と地つ神との聖婚から日向三代が始まり、そして第一代神武天皇より、第一二五代今上天皇までの連綿と続く輝かしい皇統へと繋がるのです。

つまり、ここ「笠沙の御前」の二神の出逢ひから、豊葦原の水穂の国、皇国日本が始まつたのでした。

また、「ここは韓国に向ひ笠沙の御前に真来通りて、朝日の直刺す国、夕日の日照る国ぞ。かれ、ここはいと吉き地」と『古事記』にはあります。天孫降臨の場所としても、また二神が初めて出逢ふところとしても、最良の所「吉き地」であつたのです。私たちは、『古事記』に表された神々のご事績に学ぶとともに、身近にある神々の

聖蹟を温ねて、今に生きる糧にすることが重要だと考へます。

さて、あなた自身は、大切な人と最初に出会へたあなたの「笠沙の御前」はどこであつたか、覚へてゐらっしゃいますか。それは、西都原ですか、それとも鶺鴒神宮。

これから、真夏の時期を迎へます。ご健康に留意され、お元氣にてお過ごしになりますやう念じてをります。

(参照 新潮日本古典集成『古事記』)

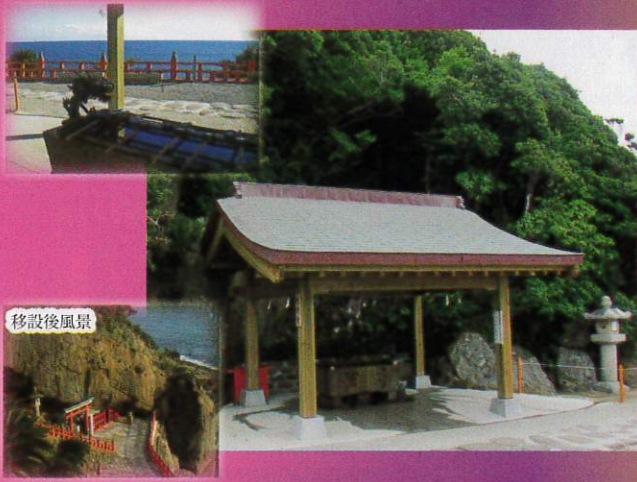


笠沙の御前 (逢初川)

出会いの絵が、現在も多くの瞬間の記録として残っています。舞臺の訪れ、語りなれ、物さ切さ、恋と大川、神聖の川切

手水舎移設

昨年十二月、手水樹の移動を清友開発に、手水舎建築を徳井建設に依頼。長年洞窟入り口の鳥居横にありました手水舎を、神橋(玉橋)手前の参道へと移設いたしました。海原を眺めながら、身も心も晴れやかに清めただけの絶景の場所皆様をお迎へしてをります。



移設後風景

奉納

五月三十日、大阪府在住の河野昭和氏より胴長太鼓他を奉納いただきました。



四月二十日、宮崎市在住の杉本和夫氏、ジャステック(株)杉本慶樹氏より、各々燈籠を奉納いただきました。



杉本和夫氏は二十三年三月にも奉納され、今回で二基目となつた。

五月二十四日、宮崎市在住の河野八州男氏より燈籠を奉納いただきました。



日頃よりご崇敬いただき、河野氏が大変お世話になつた河村清氏の名を彫り奉納したいと相談があり、海を見渡せる参道脇に設置した。



御詠歌



祭典風景



宮司祝詞奏上



読経

別当宮司先賢慰霊祭

(五月十六日)



舞楽「納曾利」



参進



宮司祝詞奏上



奉祝四半的奉納大会



献幣使祝詞奏上

例祭 (二月一日)



参進



「浦安の舞」奏舞

祈年祭 (二月十七日)



《由緒本「鵜戸さん」案内》

【取り扱い先】

☆鵜戸神宮社務所

☆鵜戸神宮本殿お守り所

初穂料 1500円

☆宮崎市内

鉾脈社提携書店

(問合せ要)

【発行】

「鉾脈社」(こうみやくしや)

(みやざき文庫94)

0985-25-1758

この度、本部雅裕宮司の著による鵜戸神宮ご由緒本『鵜戸さん』が出版されました。これまでは、昭和十七年に刊行された「鵜戸の宮居」が唯一の由緒本でした。しかし、記述の解釈が難解な部分も多く、歴史やさまざまな信仰、境内要所の説明などが、総合的には紹介されておませんでした。懸案のひとつとなつておりましたが、宮司と宮崎市「鉾脈社」川口社長とのご縁により、出版計画が持ちあがり、試行錯誤を重ねつつ、二十四年十二月についに完成。驚きのエピソードも満載されたガイドブックとして、めでたく出版されました。皆様には、手軽に解りやすく、鵜戸神宮を知ってもらへる為の総合案内書として活用いただき、神話・歴史と今が繋がる素晴らしい物語を、ぜひ一読下さい。

必見!! 鵜戸神宮を明解説

鵜戸神宮由緒本「鵜戸さん」

出版

その信仰と伝承



玉串拝礼



祝詞奏上



参進



代掻き



田植体験

お田植祭 (三月二十二日)



シャンシャン馬道中唄全国大会



シャンシャン馬道中再現



宮司祝詞奏上



鵜戸さん獅子舞

縁日大祭 (三月三十日)
シャンシャン馬道中再現
シャンシャン馬道中唄 (三十一日)

神道政治連盟推薦

参議院議員 比例代表 (全国区)

ありむら治子

「時間軸を持つこと」



先の大戦末期に特攻基地があつた鹿児島県知覧の特攻平和会館を訪れた時のことです。入場した途端、正面のガラスケースに収められた一幅の掛軸が目飛び込んできました。今から七十年近く前、特攻隊員の一人が墨痕鮮やかに遺した書には、

岩が根も 砕かざらめや 武士(もののおの)の
國の為にと 思ひ切る太刀(たち)

と書かれていました。

この歌はそもそも、今から約五十年前の「桜田門外の変」に十七名の水戸の方々とともに、唯一人藩を代表する気概をもって参加した薩摩浪士・有村次左衛門が詠んだ辞世の句であります。

幕末、二十一才で自刃した四代前の先祖の歌を、まさか特攻平和会館で見ることになるとは思いもかけず、不意打ちを喰らったように目頭がジーンと熱くなり、これから最前線に赴く特攻隊員の心理状況が伝わってくるような厳肅な気持ちになりました。幾多の困難に立ち向かつて歴史が重ねられていく蓄積をズシリと感 験して

続いていこうという国民性が涵養されてきたのでありましょう。

神界の先生方が体現されている概念に「中今」というものがあります。有史以来二千数百年の我が国悠久の歩みを考えれば、私達一人一人が生を紡ぐ数十年は、例えてみれば「まばたき・一瞬」に過ぎないものかもしれませんが、過去・現在・未来と連続と続く歴史における時間軸を認識し、その時々、「中今」命のリレーの中間走者」としての役割を与えられた自らが、できることを心してやり遂げることが、保守の最大の務めだと認識しています。

先月、先週の世論調査、支持率動向に一喜一憂し、前週との比較に気を採みながら意思決定をしようとする政党や政治家の現状は、余りにも時間軸に対する敬意と「中今」の矜持を失ったものであり、近視眼的なタコツボに陥ることへの警戒感を強めます。目指すべきは、移ろいやすい世論調査の浮沈ではなく、いかにして歴史の評価に耐えうる意思決定を重ね、その指標を理解し共感して下さる国民の層を厚くするか、という時間軸を持ったふれない戦略です。

民族が生を紡いできた証としての歴史や時間軸に敬意と誇りを持ち、複眼的思考と鳥瞰的視野を持って、真摯に日本の針路について議論し、歴史に謙虚に向き合い発信することのできる議会人でありたいと念願致します。

新職員紹介

巫女

(さえきいくこ)



佐伯 育子
平成五年十一月十六日生
日南高校卒

【抱負】

奉職して早三ヶ月、まだまだ覚えることがたくさんありますが、しっかりと習得し、奉仕を通じて少しでも社会貢献出来るやうがんばります。

巫女

(はやしはるか)



林 遥伽
平成六年十二月二日生
日南学園高校卒

【抱負】

参拝者の方に「また来たい」と思っていただけに、笑顔や気配りを中心に掛け、一日も早く社頭奉仕に慣れて皆様の役に立てるやう、がんばつてまいります。

衛士

(かわせまこと)



川瀬 真
昭和五十四年四月十七日生

【抱負】

主として境内の維持管理に携はつてをります。参拝者が安全に楽しくお参り出来るやう努めてまいります。

委 嘱

責任役員

平成二十五年六月一日委嘱

- 植野 章一 藏富 英志
- 濱上 貢 清水 満雄
- 長友 治 湯浅 智視
- 和田 皓 磯上 英機

氏子総代

平成二十五年五月一日委嘱

- 長谷川 弘 鬼束 忠一
- 後藤 邦治 川瀬 司
- 江口 義雄 川瀬 静
- 川瀬 力 長友 泰
- 育田喜一郎 竹山 裕二
- 池田 宗利 関屋 勝

崇敬者総代

平成二十五年五月一日委嘱

- 濱中 武紀 長友 宗利
- 高橋 紘久 浜田 義正
- 奥村 幸男 畑田 和彦
- 岩切 文宏 上村 育俊
- 野末 芳広 日高 司
- 鈴木 武 石灘 健次
- 門丸 正憲 外山 栄告

第三回「ユードア」奉納音楽祭開催

【諸参加者】

- ミキサ D・ケリソン
- キーボード 大西洋介
- キーボード 今村さつき
- キーボード 稲田由香里
- フルート 勝江幸代
- 尺八 佐伯智史
- 和太鼓 衛藤和久
- 演劇 川崎和哉
- 演劇 松本裕子
- 演劇 高橋祐生
- 統括 吉岡けい子
- 司会 高橋真利子

【参加神職】

- 鳳笙 高橋嘉樹
- 篳篥 湊田賢二
- 舞人 中武信明
- 太鼓 草場裕之
- 太鼓 中原慎太郎
- 太鼓 佐師慶保

今こそ円借款や政府開発援助・技術移転等、先進国から途上国への外交的支援が制度化されていますが、当時の日本は、植民地獲得に奔走する帝国主義の列強諸国に囲まれていました。維新の志士をはじめ、その時代を生きた各地の人々はそれぞれ「藩」に属しながらも、「藩」を超えた「国家」という視点をもって、国家の存亡と自らの生存を重ね合わせ、全力で苦境に立ち向かっていかれたのでしよう。幕末・明治と大きく近代化を成し遂げた日本人の苦難と勤勉の歴史がここにもあります。民主主義が成熟した現代においては、議会制度が確立され、それぞれ異なる意見も議論され収斂・解決が図られますが、かの時代にあつては、幕府への意見具申が許されず、一族の命をかけての訴えでありました。

「桜田門外の変」については、その事変としての性格や当時の日本を取り巻く内外の時代背景を踏まえ、歴史的评价が分かれるのもある意味当然のことと存じますが、結果的には、約二百年続いた徳川幕府・江戸時代から明治という新しい時代へ歯車を廻す歴史のターニングポイントとなりました。

初当選以来十年以上もの間、神界の皆様にご交誼を頂き、国家観や歴史観に多くの示唆を賜ってきたことは、政治家としての糧であり、誇りであります。何代にもわたつて先祖の系譜を継いでこられた神職の先生方が多くいらつしやることは、神界のみならず、日本の宝だ、と感じます。日本各地に、歴史の縦糸を紡ぎ、遺していく価値観が根付いているから、百二十五代に到るまで一貫して継承されてきたご皇室の尊さを受け



四月二十五日・二十六日・

三十七日、午後七時より融合音楽祭が開催された。

座席は八十席用意された

が、初日は九十七人、最終

日は二三〇人を越える来場

者で賑わつた。

いさみ太鼓奉納

五月五日、地元小中学校の生徒をはじめ、県内外の小学校の児童達五十三名が鵜戸神宮に参集し、三十七回目の太鼓演奏を行った。

昭和五十一年より毎年奉納してゐるこの伝統行事は、ハツピ姿に鉢巻きをキュツと締め、鵜戸神宮眼下に打ち寄せる荒波を太鼓・横笛・鈴で表現。子供獅子が元気に舞ひ踊つた。



敬神婦人会植栽活動・ 恵比須神社縁起飾り授与

一月十日、恵比須神社例祭を斎行。九日と十日の二日間、当神宮敬神婦人会の長友会長はじめ会員によつてお札所の奉仕活動が行はれた。

三月二十四日、参道植栽活動を実施。敬神婦人会会員の手植系により、当神宮の表玄関である八丁坂参道に可憐な花が咲き並び、参拝者の目を楽しませてゐる。



編集後記

○社報「第七十六号」をお届けいたします。

○ある日、祭典奉仕の為並んでご本殿へ向かつてみると、「何をやってるの?」「さあ?」との会話が私の耳に入つてきました。「今から何があるの」はよく耳にしますが、その何気ない会話が、私には重い言葉に感じました。

○社報はお宮の記録書であると同時に、皆様と神社が身近に繋がつてゐることを理解していただく情報紙でもあります。一人でも多くの方に、解りやすく行事を紹介するとともに、その重要性もお伝えしなければと、微力ながら自分の目標として再確認した出来事でした。

○みなさまのご参拝を心よりお待ちしております。
(高橋)

